



**広瀬 豊** 広瀬矯正歯科  
**鈴木 智子、細川 淳子** 大阪歯科大学歯科矯正学講座  
**鈴木 善雄** 凌雲堂矯正歯科医院

■ 略歴 (広瀬 豊)

- 1984年 岐阜歯科大学卒業
- 1988年 朝日大学大学院 歯学研究科修了、歯学博士
- 1990年 広瀬矯正歯科(神戸市)開設  
日本矯正歯科学会 認定医
- 1991年 朝日大学歯学部 歯科矯正学講座非常勤講師(～2005年)
- 2008年 日本矯正歯科学会 専門医

大臼歯の移動装置 Simple Molar Controller (SMC) の応用 - SMCを用いた下顎第二大臼歯のアップライト -

【緒言・目的】

最近、下顎第二大臼歯が下顎第一大臼歯の歯頸部に近心傾斜し、正常に萌出しない症例が多くみられる。さらに下顎に智歯が存在すると、下顎第二大臼歯はその萌出力によってより近心に傾斜する傾向がある。しかし、下顎第二大臼歯の近心傾斜を容易に改善する装置や治療の報告は少ない。今回、第62回日本矯正歯科学会大会で報告したSimple Molar Controller (SMC)を用いて、近心傾斜した下顎第二大臼歯のアップライトを行ったところ、短期間で良好な治療結果を得ることができたので報告する。

【方法】

報告する患者は4名で、治療開始時の年齢は12～31歳、全症例とも両側下顎第二大臼歯が近心傾斜し、両側に智歯が認められた。成人においては上顎第二大臼歯が過挺出していたことから、SMCを用いて過挺出歯の圧下を先に行い、その後フックにパワーチェーンを付けて第二大臼歯のアップライトを行った。若年者の場合は、SMCのフックが頬粘膜にあたる事が多いため、舌側の下顎第一大臼歯から下顎第二大臼歯の遠心部分にワイヤーを延長して、第二大臼歯の咬合面に付けたリングボタンからパワーチェーンで牽引した。成人症例では、智歯の抜歯を治療開始前に行ったが、若年者の場合は智歯の抜歯が困難なことから、先に第二大臼歯のアップライトを行い、その後に智歯の抜歯を行った。

【結果】

全症例において3ヶ月～10ヶ月でアップライトが完了した。いずれの症例も治療中に痛みは無く、移動歯の挺出や下顎の時計回りの回転はなかった。

【考察】

今回用いたSMCは、小・大臼歯の遠心移動の装置としてだけでなく、下顎第二大臼歯の近心傾斜を短期間でアップライトできる装置であることがわかった。

